

卒業論文

**ホークス私設応援団「あぶさん会」の社会学的
研究**

—「リリース」機能の発見—

平成 18 年入学

社会学・地域福祉社会学専攻

平成 22 年 1 月提出

要約

本論文は、「あぶさん会」という、福岡ソフトバンクホークスでは唯一の内野で活動する私設応援団に着目し、「ホークスファン」について分析したものである。手法はインタビューや参与観察を中心とした質的調査による。

まず、序章ではなぜ今回このテーマを設定したのか、筆者の経験に基づき研究の動機を述べる。

第1章では、まずは「あぶさん会」という集団にふれる前に、そもそも「集団」といった、人と人との集まりの定義や、「スポーツファン」という概念を、先行研究を用いて確認する。そのうえで、ファンの中でも特異な存在である、今回焦点を当てる「あぶさん会」が属する「応援団」というものについて、歴史や定義を確認する。また、これまでスポーツ社会学の領域において「応援団」がどのように研究されてきたのかを先行研究によりまとめる。

そののちに、まず「ホークス」の歴史についてふれ、「ホークスファン」の定義をし、言葉の意味の共有を図る。

第2章では、本論文の目玉である「あぶさん会」についての、フィールドワークのデザイン、記録について述べる。そこで、まずは「あぶさん会」についての概要、調査記録、そこから得られた印象などを記述する。

第3章では、いよいよ「あぶさん会」の詳しい分析に入る。ここでは、明らかになった機能2つを中心に見ていく。1つめは、「リリース機能」である。これは、応援団の中でも特殊な集団である「あぶさん会」のみがもちうる「内野と外野をつなぐ」という性質を指す。2つめは、「ゆるぎないアイデンティティの獲得・再獲得機能」である。ここでは、若い世代と比較的年齢が上の世代が「あぶさん会」に所属することで得られる、それぞれのファンとしてのアイデンティティについて述べる。

「リリース機能」について述べるために、まずは外野と内野との応援スタンスの違いにふれる。また、「応援」そのものの、そもそもの目的についてもここで言及しておく。そののちに、「リリース機能」について論じ、そのルーツは第2章で明らかになっていた「あぶさん会」の特徴である「受容」のスピリットが関係していることを述べる。

続いて、「ゆるぎないアイデンティティの獲得・再獲得機能」に移る。ここでは、「あぶさん会」の若い世代のメンバーが、これから「ゆるぎないアイデンティティの獲得」を果

たすことについて述べる。また、かつて球団の身売りというアイデンティティ・クライシスを経験した元「南海」ファンと元「西鉄」ファンも含まれている「あぶさん会」のメンバーが、会に所属することによって「ゆるぎないアイデンティティの再獲得」を果たしていることを示唆する。

そして、その「アイデンティティ」をどのようにして得るのか、「オーソライズ」という視点から論じる。これについては、筆者の個人的なオーソライズの例を引き合いに出したうえで、「応援団」に所属するファン、「オフィシャルファンクラブ」に所属するファンの、それぞれのオーソライズの性質を定義づける。また、そののちに先に示した筆者のオーソライズの例がどういった性質をもつのかを論じ、「マージナル・ファン」という語句にそのイメージを集約させる旨を示す。

第4章では、これまでの視点とは別の次元で、「球場に足を運ぶファン」である「観客」に対して、共同体という観点から分析を加える。この際、実体ある共同体に属する「応援団」以外の観客を「想像の共同体」と定義し、「あぶさん会」をはじめとする一般的な応援団がもつと思われる機能について分析を行う。

そして、まとめとしてこれまで示してきた自分なりの分析から得られた発見をもう一度簡潔に示す。

おわりに、自分が行ってきた研究がどのような意味をもったか、反省点等も含めて記し、今後の展望についてもふれつつ締めくくる。

目次

序章	—はじめに	1
第1章	ホークスファンと応援団	4
第1節	スポーツファンの先行研究	4
1.1	スポーツファンの定義	4
第2節	応援団	6
2.1	応援団の存在	6
2.2	応援団の歴史	7
2.3	応援団の機能 「鎮めの文化装置」	8
2.4	応援団の規則について	10
2.5	「応援団」の定義	12
第3節	「ホークス」とは	13
3.1	「ホークス」の歴史	13
3.2	「ホークスファン」の定義	17
第2章	フィールドワーク —内野私設応援団・あぶさん会—	19
第1節	調査の概要	19
1.1	調査の目的	19
1.2	調査の対象	19
1.3	あぶさん会を選んだ理由	19
1.4	調査方法	20

第2節 「あぶさん会」とは	21
2.1 歴史・経緯	21
2.2 構造	22
2.3 活動	22
2.4 特徴	24
2.5 「あぶさん会」納会	24
第3節 あぶさん会のスピリット ——フィールドノートより	26
3.1 受容のスピリット	26
3.2 変化への適応 ——西鉄と南海と	26
第3章 分析 —あぶさん会の機能—	29
第1節 <機能①> 「リリーフ機能」の発見	29
1.1 外野と内野	29
1.2 応援の自己目的化	29
1.3 リリーフ機能——内野と外野を<つなぐ>役割	32
第2節 <機能②> 「ゆるぎないアイデンティティの獲得・再獲得機能」の発見	33
2.1 ゆるぎないアイデンティティの獲得	33
2.2 ゆるぎないアイデンティティの再獲得	34
第3節 オーソライズとマージナル・ファン	36
3.1 「オーソライズ」の創出によるアイデンティティの確立	36
3.2 マージナル・ファンの発見	40
第4章 「想像の共同体」と応援団の果たす機能	42

第1節 想像の共同体	42
第2節 応援団の機能	43
1.1 「代表」機能による安心感の提供と危険性——ロッテの例より	43
1.2 リリーフ機能と会のイメージによる緩和	46
1.3 その他の機能 ①定着機能	47
1.4 その他の機能 ②気づきの機能	50
まとめ	51
おわりに ——「ホークスファン」のこれから	53
資料編	55
参考文献	59
謝辞	60

凡例

1. 本文中の表記において、引用文などは本文ママ記載した。そのため、引用文中は漢数字を用いている箇所がある。
2. フィールドノートからの引用は、おもに短い発言を扱っているため、字頭を1文字分下げ、ダッシュ2文字分を用いて見やすいように表した。
3. 脚注に挙げた出典がウェブサイトの場合、URL横の日付はアクセスした日時を示す。